

平成25年6月13日
神港学園神港高等学校
学校保健委員会

ほけんだより

6月

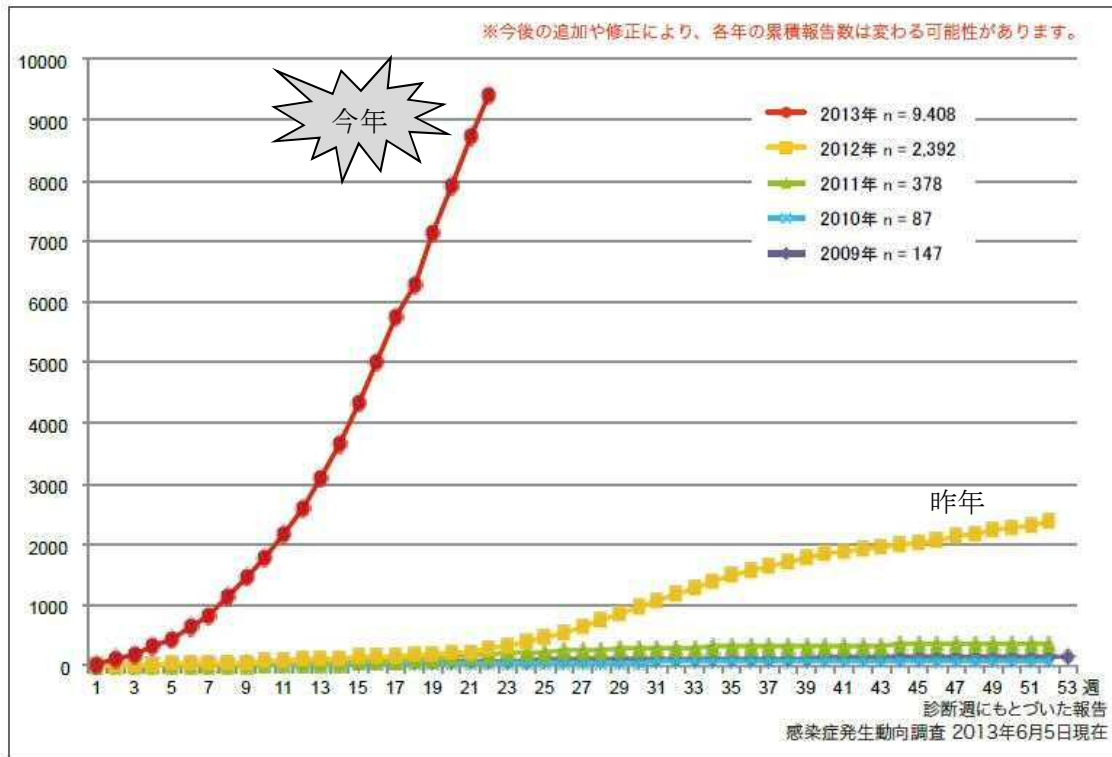
風しんが流行中！患者報告数は今年の約30倍！！

※2012年1~3月と2013年1~3月の比較

昨年2,353人の人が風しんにかかったと報告があり、過去5年間では最も多い数となりました。今年3月末時点で、すでに昨年の報告数を上回り、早いペースで報告数が増えています。

風しん累積報告数の推移 2009年~2013年（第1~22週）

それぞれの年に風疹にかかった人の数



都道府県別風しん累積報告数（2013年1月~5月）

- 1位 東京都（2336人）
- 2位 大阪府（1758人）
- 3位 神奈川県（1066人）
- 4位 兵庫県（701人）
- 5位 千葉県（493人）

都道府県別の風疹にかかった人数の合計

関西が上位にランクイン！
みなさんの周りにも風しんにかかっている人がいるかも？



首都圏や近畿地方での報告が多く、患者の7割以上は男性で、うち10代後半~40代が8割以上でした。体力や免疫力（ウイルスなどの病気の原因をやっつける力）が高い世代の、特に男性で流行しているため、私たちも注意していかなければいけません。

風しんの症状



- 耳の後ろや首すじが腫れる（ブツブツが出る前）
- 全身に赤色の細かいブツブツが出る
- 37~38℃程度の発熱

➡ こんな症状が出たら病院へ行きましょう

風しんにかかったら何が怖い？

風しんは子どもの時にかかる軽い症状で済みますが、大きくなってから風しんにかかる症状が重くなり、1週間以上続く場合もあります。しかし、それよりも怖いのは、妊娠中の女性が風疹にかかることです。妊娠中に風しんにかかると、お腹の中の赤ちゃんが風しんウイルスに感染し、耳が聞こえない、目が見えない、心臓の奇形（心臓の形が変形する）などの障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。家族・親戚・ご近所さんなど、あなたの周りに妊婦さんはいませんか？現在の風しんの流行の影響で、障害を持って生まれてくる赤ちゃんが増えています。あなたが風しんにかかることで妊婦さんに感染させてしまえば大変ですね。妊婦さんだけが、風しんの予防をするのではなく、周りの人もしっかり予防しておくことが大切です。



予防するためには…

一番効果のある予防法は予防接種を受けることです。現在、風しんの予防接種は1歳児と小学校入学前の2回行うことになっています。みなさんはちゃんと受けていますか？分からない人は母子手帳を見るか、保護者の方に聞いてみましょう2回予防接種をしても、抗体（体の中に入ったウイルスなどを防御してくれるもの）が十分ついていない場合があります。現在、約10%の人が十分な抗体を持っていないと言われています。今は必要なくても、将来家庭を持って子どもを作りたいと思っている人は、「妊婦さんにうつさないために風しんの予防接種！」と覚えておいてください。女性は妊娠中は予防接種を受けられないので、早めに対策をとっておきましょう。



今風しんにかかったら…

風しんは飛沫感染（風邪と同じで、話をする時や咳で出るつばによって感染する）のでマスクをするようにしましょう。また、風しんで学校を休む時はインフルエンザと同じように「出席停止」という扱いになります。「出席停止」にするためには「登校許可証」を病院で書いてもらい、学校へ提出する必要があります。「登校許可証」は生徒手帳や学校のホームページに載っているので、印刷して使用してくださいね。

感染症は人にうつしてしまう病気です。「自分がかからなければいい」ではなく、どのような病気があるのかを知り、家族や友達など大切な人にうつさないよう、予防できるようになりましょう。